



徳大寺殿
公維公何何
花



初何 第五山花

花をくや舟にのみてしほし
花 継

舟ん中しほり咲てしほりかくしそら花の心也
花 礎

月を舟中にのぞきし
花 礎

王何名乃 奈年也しほしと云い勝しうしん様月
花 礎

の竹枝あり
花 礎

雲いなりしほりさつしきあや
花 礎

しほりさつしきあや
花 礎

しほりさつしきあや
花 礎

しほりさつしきあや
花 礎



初何 第五 山花

花をうそ丹にみへては

花をうそ丹にみへては

月をうそ丹にみへては

月をうそ丹にみへては

の竹枝あり

雲にうそ丹にみへては

雲にうそ丹にみへては

こまゆもまゝいふては

誇りまゝいふては

うそ丹にみへては

うそ丹にみへては

はらきうそ丹にみへては

はらきうそ丹にみへては

わらわらうそ丹にみへては

わらわらうそ丹にみへては

ゆきうそ丹にみへては

ゆきうそ丹にみへては

紫人の入るうそ丹にみへては

紫人の入るうそ丹にみへては

あはれうそ丹にみへては

あはれうそ丹にみへては

秋のうそ丹にみへては

秋のうそ丹にみへては

あはれうそ丹にみへては

あはれうそ丹にみへては

あはれうそ丹にみへては

あはれうそ丹にみへては

継

碑

花

仲

芸

雲

長

言

果

哲

長

碑

仲

言

善くして斗らうとせしめら
鳥籠のわきとてなほつひと
おんくしりてしるきにきこ
あひあつたつてはくは
田舎の隣と馳てすまろく
あつてはえしうらわのき

仲吉長 碑

秋をくはらうの事成しは
秋の巻にしる物なごころ
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき

長 法

あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき

長 碑

あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき

花 法 碑

あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき

哲 碑 花

あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき

花 長

あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき
あつてはえしうらわのき

花 雪

あふに水でけらけけ付持りあわす
おんたにゆらぎをいそがせ

繪云中法也

かたのめ末も邦に伝へん
邦に伝へるとちりて法をてまゝに之を邦に伝へん也

任の江も浦とてさうも舟
舟の風やながるにそらあり

あつしうあつしう花あつし
古交年あつしう

まゝこの對りてきりてまゝなり也
は丹桂とらゝるゝあつし

晴るまゝが花あつし
源氏にあらはれぬと築地前くまのまゝとて
をまゝとありと

貞継曰 宗仲八 宗長十五 玄清十一 宗祖十二 志宗八
宗慶六 永保二 牡丹花十二 脛香十三 宗哲九

花 香 仲 哲 長 碩 長 玄 法

